

1. 実況上の着目点

① 大型で強い台風第21号がフィリピンの東を北西進。台風周辺の下層暖湿気が流入し、南西諸島では雷を検知し激しい雨を解析。また、台風と黄海に中心を持つ高気圧との間で気圧の傾きが大きくなっており、強い風が吹き、台風からのうねりも加わり波が高くしけとなっている所がある。

② 低気圧がカムチャツカの東にあって、北北東進。前線が日本の東から日本の南にのびている。前線に向かい下層暖湿気が流入し、西～東日本の太平洋側では1時間に10～20mmの雨を解析。

③ 日本海には移動性の高気圧があって、東に移動。この高気圧と②の前線との間で気圧の傾きが大きくなっており、やや強い風が吹き、うねりを伴い波が高くしけとなっている所がある。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 1項①の台風は、発達しながらフィリピンの東を北西進、31日は非常に強い勢力で沖縄の南に進む。南西諸島と西日本では、台風周辺の下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。また、台風の接近で強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。特に先島諸島では、非常に強い風が吹き、猛烈なしけとなる所がある。先島諸島では31日は、高波に厳重に警戒し暴風に警戒。南西諸島では31日にかけて、西日本では31日は、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、強風やうねりを伴った高波、落雷や竜巻などの激しい突風に注意。

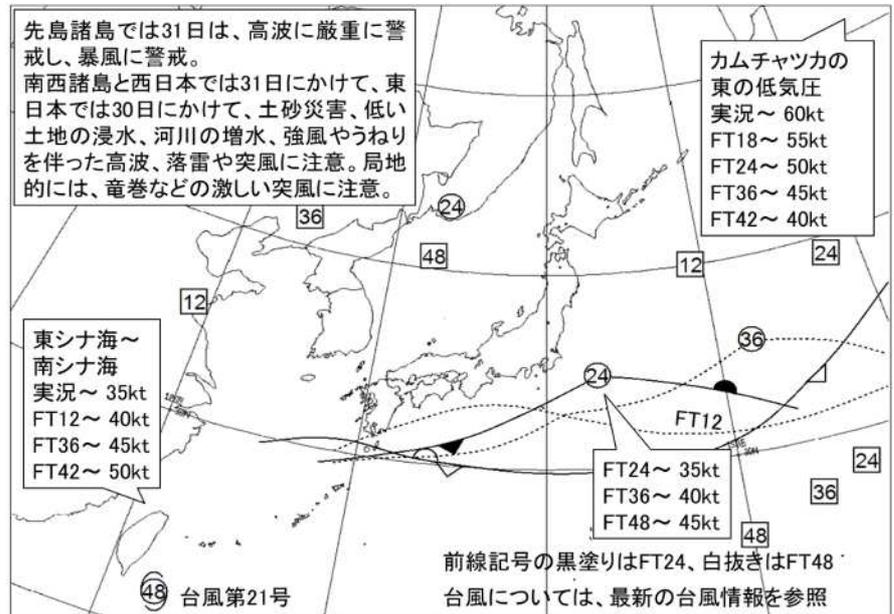
② 1項②の前線は、31日にかけて日本の南～日本の東にのびる。500hPa5820m付近のトラフに対応し、30日朝までに前線上に低気圧が発生し、30日は日本の東を発達しながら東北東進。前線や低気圧に向かって、南から下層暖湿気が流入し、大気の状態が非常に不安定となり、雷を伴い激しい雨が降り大雨となる所がある。西～東日本の太平洋側では30日にかけて、土砂災害、低い土地の浸水、河川の増水、落雷や突風に注意。局地的には竜巻などの激しい突風に注意。

③ 1項③の高気圧は、30日は日本のはるか東に移動する。この高気圧と2項②の前線との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹き、波が高くなりしけとなる所がある。西～東日本では30日にかけて、強風やうねりを伴った高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ①雨量(18時からの24時間)：伊豆諸島100mm。②波浪(明日まで)：沖縄7、東海・近畿4、関東・伊豆諸島・四国・九州北部・九州南部・奄美3m。

5. 全般気象情報発表の有無 「台風第21号に関する情報(総合情報)」を17時頃に発表予定。



主要じょう乱解説図